

●ポスター発表名

「答えは子どもの中にあった ～園内研修を通しての学び～」

●発表者

鍛治 和明 ・ 中島 篤史(学校法人ひじり学園 せんりひじり幼稚園)

●テーマの背景

平成24年度現在、我が園は年少25名 5クラス、年中30名5クラス、年長 30名5クラスの全15クラスでなっており、計425名の子どもたちが在園しています。

以前、我が園は保育者発信の保育内容とする、一斉保育を行っていました。

そして公開保育を行い他園の先生方にご意見をいただいたところ、「子どものやりたいことが出来ていない」「保育室が整いすぎている」「やることが決まっていて、保育者は楽そうだ」という意見をもらいました。

そこで私たちはこのままでいいのか??という疑問を感じ、まず、子どもが主体的に遊びを選べる環境として保育室にコーナーを作りました。そして、子どもの育ちにあった、自分で好きなおもちゃや活動を、集中して夢中になって遊び込めることが出来るように、保育室の環境の見直しをしました。そして、どうやったらもっと楽しくなるだろう、夢中になって遊んでいるだろうか、安心して過ごしているだろうか、明日も続きがやりたいって気持ちが湧いて出るのだろうか、教育課程やカリキュラムを子どもの姿に照らし合わせてきました。

その中で、保育者が感じた保育をする中での沢山の疑問。その疑問を自分一人で抱え込まずに、園内研修を通して、子ども理解を深めていこうと考えました。

「どうかかわっていいかわからない。」

「どうかかわる?」の前に「その子ってどんな子?」

という疑問をもつことから園内研修が始まりました。

●ポスターの概要

日々、様々な姿を見せる子どもたち。

担任が時には否定的に捉えてしまいそうな子どもの姿も、他の担任の視点や、他の角度から見たりすることで、新たな気づきや明日への手立てのヒントが生まれてくる。

日々の保育の進め方の答えは、実は「子どもの中」にあった。

子ども理解のために行なった園内研修の様々な方法や、そこでの学びを発表したいと思いません。

<参加した方からの質問>

・時間について

Q、研修をどのくらいのスパンでやっていますか

A、月に1回程度。行事前だとなかなか時間が取れない時もある。

事前に打ち合わせや教材準備などの予定をたてる際に、園内研修としての時間をなるべく確保するようにしている。

Q、研修を行う際、どのくらいの時間を設けていますか

A、保育後に大体1時間から1時間半を目安に行っている。

話し合いを円滑に進めるためにファシリテーター（話がずれないように導き手となり、みんなの意見をまとめるなど、発言しやすい環境をつくる。）の存在が必要。ファシリテーターについてはまだまだ勉強中。

Q、エピソードを書く時間はどのようにとっていますか。

A、保育後に数十分の時間を作り、「エピソードを書く」という時間を取っています。

・手法について

Q、マッピングってどうやってするのですか。

A、気になる子や、教材、行事など、様々なことに活用出来る。

担任以外にも副担任やフリーの先生など、中央においたヒト（気になる子）・モノ（教材・素材）・コト（行事）などの1つに焦点を当て、それに対して情報を持っている人から情報をもらい、関連付けて書いていく。その中での共通点や矛盾点を見つけ、新たな視点に気づいたり、手立てを知ることが出来る。

マッピングの例（添付資料あり）

Q、3つの手法（マッピング、写真、エピソード）をどのように使い分けていますか

A、マッピング・・・気になる子（個人）、その子のことを深く知りたい時、なぜ～するのだろうか？と疑問を感じた時や、教材研究などの時に使用したりする。

写真・・・・・・年度始めに行うことが多い。新しい学年になった先生にも視覚的にイメージの共有がしやすい、各クラスの育ちや姿を捉える時などに有効。

エピソード記録……会話を書き出す。子どもとの関わりに迷った時など。子ども、子ども同士、子どもと保育者、モノと関わっている姿などの会話から、子どもの育ちを知ることが出来る。特に会話の多い5歳児で行うことが多い。

・同僚性について

Q、話し合いの雰囲気づくりではどんな工夫なされていますか

A、新任の先生にとっては、話し合い、研修の場で発言するのは難しい。園では先輩が話やすい雰囲気を作ってくれている。又、ポストイットを使用し自分の考えや思いを言葉でなく紙に書き出すことで発言しやすくなった。

Q、日々子どもの様子をどう伝え合っていますか

A、クラス数も多いので、主に学年単位で研修を行っている。また学期の振り返りや、外部講師の方に来園してもらった時は全職員で行うこともある。しかし、職員室で何か作業をしながらの、なにげない会話からも子どもたちの育ちを感じられたり、新たな手だてのヒントも隠されていたりするので、そういうことも大切ではないかと思う。

・園内研修をおこなって

Q、研修を行い、違った視点で子どもと関わったら、何が変わりましたか

A、保育者の声かけや関わりが変わることで、子どもたちの姿にも反映されるのではないかと考える。子どもたちのことを「できる、できない」で、という視点で捉えてしまうこともあったが、子どもたちの姿を肯定的に見られるようになったことが大きな学びではないか。